



Noto PLUS

神恩感謝—
暴れることが
神への祈り。



Proud!
Japan

Photo/ あばれ祭二日目、梶川上流の松明の下で暴れる酒垂神社の「あばれ神輿」

東日本大震災の復興を支援しよう

■発行・能登町 ■編集・広報情報推進課
〒927-0492 石川県鳳珠郡能登町字宇出津新一字ユーエン番地一

TEL: 0768-92-1000(内)
FAX: 0768-92-1000(外)
URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp

のと ふうど

のはぎが撮る母、
となみさんの料理と家族のおはなし

第8回 西瓜すいか

写真・文 中乃波木



西瓜の栄養素

ウォーターメロンとも呼ばれる西瓜は、その90%が水分、10%が糖分という、大変みずみずしい食べ物です。その中にはリコピン、カリウム、シトルリンとこの他にもたくさんのビタミンやミネラルが豊富に含まれています。シトルリンとは、最近注目されはじめた他の果実にはほとんど見られない成分で、アミノ酸の一つに挙げられます。体内の老廃物や、有害物質などを体外に出してくれる利尿作用があります。

昔、父の故郷である富山県に遊びに行った時、親戚のおじさんのような、おじいさんのような人が、畑で採れた西瓜を食べさせてくれたことを覚えています。頭にタオルを巻いて、よく焼けた肌の顔を、眺めながら笑っていたのも覚えてます。西瓜を食べている私を、笑いながら「すつ」と見つけてくるので、見られ続ける私は甘いか美味いかよく分からなくなって、ただ、このおじいさんが作った西瓜を食べているんだ。ということだけが、緊張する頭の中ではさきりしてました。

関西から父に連れられて富山へ行っていた当時4歳の私が、それから数十年後、その左上に位置する能登半島に家をもち、家の畑で初めての西瓜が採れて大喜びする日を迎えることになるのは、人生の不思議な巡り合わせを感じます。

ひとつだけ苗を植えた母・十七波さんの小さな畑には、三五の西瓜がなりました(ひとつは狸に食べられました)。なるもんなんだなあと感激し、あの富山の西瓜畑とおじいさんを、以来初めて思い出したのでした。

初めてなった西瓜を食べるとあって、大騒ぎしながら写真を撮ったり、どう切るかを話したりとざわつく我が家で、まな板にのせられた西瓜は静かに時を待っています。今更、切り方によって味が変わってしまうわけでもないのに、なかなか切り込めない十七波さんと私。「キヤー」と言いながら切った西瓜は、新鮮な果物の味がしました。

家族三人で食べながら「どう？どう？」と、自分の味覚より人の反応をうかがいながら平らげていった西瓜記念日に、あの時のおじいさんのあつい視線の訳が、やっと分かったのです。



中乃波木(なかのはぎ)
昭和54年、東京生まれ。13歳の時に母親と共に旧柳田村へ越し、中学の二年半を過ごす。その時の感動が忘れられず、東京造形大学写真学科へ入学後から能登の写真を撮り始め、卒業後は広告制作会社の写真部を経て独立。能登を撮りだして10年目の平成19年12月に初の写真集「Noto」を出版(FOIL刊)。現在は能登で暮らしたころのエッセー「大波小波」を季刊誌「能登」で掲載するなど活動の幅を広げている。母、十七波(となみ)さんは陶芸家として能登町柳田で陶房 暇兎(とうぼうみんと)を構え、19年目となる。